

令和8年度 調布市立柏野小学校学校経営方針

校長 西山 豪一

「調布市教育委員会教育目標」「調布市教育委員会基本方針」「調布市教育プラン」等に基づき、柏野の自然や地域との関わりをもちながら、児童が安心して通え、保護者、地域が安心して通わせることができる学校づくりをすすめる。

【学校教育目標】

自他を価値ある存在として尊重し、持続可能な社会を創造していくための資質・能力を育成するため、次の目標を設定する。

- ◎考える子（友達と共に学び、自らの考えを深めていく児童「主体的に学ぶ力」）
- ◎思いやりのある子（命の大切さを理解し、自他を大切にできる児童「人とかかわる力」）
- ◎健康な子（自他で運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、自らの身を守ろうとする児童「健康・安全に努める力」）

【目指す学校像】

「わくわくする学校」

- 児童が、自らの成長を感じ、生き生きと学べる学校
- 教職員が、自信とゆとりをもって、互いに高め合える学校
- 保護者や地域が、安心して任せられるとともに、すすんで関わりたくなる学校

【目指す教師像】

- 児童一人一人を大切に、深い愛情を注ぐ教師
- 組織の一員として、協働意識をもっている教師
- 自らの資質・能力を積極的に高めようとする教師
- 規範意識と使命感を常にもち、信頼される教師

【学校経営の重点】

- 1 一人一人の児童に応じて学力・体力を身に付けさせる。
 - (1) モバイル端末の活用やドリル学習等による基礎・基本の定着を図る。
 - (2) モバイル端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びによる深い学びの充実を図る。
 - (3) 体験活動やめあてや振り返りの実施、自ら選択・決定できる教育活動の充実により、主体性をより高める。
 - (4) 高学年での教科担任制、中学年での一部教科担任制、低学年での交換授業等の実施により質の高い授業を実施する。また、年2回、児童による授業評価を行い、授業の質の向上に努める。
 - (5) 全教員が年間1回、自らが選んだ研究発表会等に参加し、授業改善に努める。
 - (6) 体力調査の結果を分析、ちよこプラ1調布の取組やダブルタッチ等、授業や日常の体力向上の取組を充実する。
- 2 温かい人間関係の中で豊かな心を育む。
 - (1) 6年間で児童を育てるという意識を全職員がもち、継続的・計画的な指導・支援を行う。
 - (2) 学年教員・専科教員（副担任）・かみやま教員等の連携により、多面的・多角的な児童理解に努める。
 - (3) たてわり班活動やふれあいタイムを通して、児童同士が楽しく関わる機会を創出する。
 - (4) いじめは絶対に許さないという意識の下、いじめを起こしにくい環境を整備する。
 - (5) すべての児童に対してステップルーム等の学校内外の居場所を確保し、常につながりをもてるようにする。
- 3 社会性や自立性を身に付けさせる。
 - (1) 「柏野小スタンダード」に基づき、学校生活のルールを意識させる。
 - (2) 学校行事や委員会・クラブ活動等を通して、自らの考えと行動で学校を充実させられるという経験を積ませる。
 - (3) キャリアパスポートの活用を通して、発達段階に応じた経験を積み、計画的なキャリア教育を推進する。
 - (4) 中学校との連携（中学校見学・出前授業・合唱コンクールリハーサルへの参加等）を充実し、中学校への進学を円滑にすすめる。
- 4 地域との連携を通して、地域で児童を育てる。
 - (1) 地域の子供は地域で育てるという信念の下、地域の方々が学校と関わりやすい環境を整備する。
 - (2) 学校運営協議会の充実を図り、保護者や地域の思いを受け止め、より強固な関係づくりに努める。
 - (3) 地域学習、地域人材の協力や奉仕的な活動、地域行事への参加などを通して、児童の地域愛、郷土愛を高める。
- 5 教員の働き方改革を推進する。
 - (1) 教員でなければならない仕事に専念できる環境整備に努める。
 - (2) 児童と教員が向き合う時間を確保するために、令和9年度文部科学省「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」に関する研究を推進する。

